

オビシャ

(おびしゃ)



【写真1】

船形香取神社御社擅御膳献上式
(市指定無形民俗文化財)

オビシャは、千葉県利根川流域を中心に、埼玉県、茨城県、さらには関東の一部農村で行われる新春の行事です。野田市内でも、農村部ではほぼすべての集落で行われています。

オビシャとは、神社で神事を行った後、10～20軒程度のグループが当番の家で宴会をする行事です。オビシャの「ビシャ」には「備射」「歩射」などの漢字を当てることもあるので、民俗学では弓を射るのが行事の要点と考えてきました。しかし、野田市では弓を射るオビシャは少ししかありません。ほとんどのオビシャは、当主が当番（トウヤという）の家（宿という）に集まって飲食する点を重視しています。これは民俗学では頭屋（当屋）制と呼ぶ行事です。なお、氏神（うじがみ）の大規模なオビシャだけでなく、小さな祠（ほこら）や屋敷神のオビシャも小人数で行われています。

オビシャは、古くから結びつきのある10～20軒程度のグループに分かれて行います。これを「オビシャ組」といいます。組の中から1年交代で1軒を「トウヤ」に選びます。行事の当日、各組のトウヤなど役員はお供えを持って神社に集まり、神主を招いて神事を行います。船形の香取神社のオビシャは、15のオビシャ組が神社に集まり、数多くのお供えをします。「ごちそう祭り」と呼ばれるほどで、「船形香取神社御社擅御膳献上式（ふなかたかとりじんじゃごしゃせんおぜんこんじょうしき）」の名で市指定を受けています（写真1・2）。木野崎の本郷では、神事の際に各組が的を2つ立て、役員が交代で弓を射ます（写真3）。

神事が済むと、今年の宿に戻り、集まった当主たちの宴会が行われます。その中で、翌年のトウヤへの引き継ぎである「トウ渡し」が行われ、掛け軸や文書の入った箱を受け渡します（写真4は木野崎・本郷のトウ渡し。二つのオビシャ組が合同したため、二組が引き継ぎしている）。また、受け渡しが済むと、翌年のトウヤの家に箱などを送っていく「送り込み」をし、そこでまた宴会になることもありました。

近頃は、家ではなく公民館など集会場を利用し、しかも集落内のオビシャ組の合同開催に変えた所が多いです。そうすると集落の新年会のような性格が出てきています。また、小さな祠や屋敷神のオビシャには、有志の宴会になっているものもあります。こうして行事の意義も変わりつつありますが、千葉県近辺に特有の民俗として盛大に行われていることには変わりありません。

詳しくは...

* 阿南透 1998「オビシャ研究史」『野田市史研究』第9号 野田市

【写真 2】

20 種類以上の山野菜
などが供えられる
(船形 香取神社)



【写真 3】弓射

(木野崎 香取神社)



【写真 4】

当番の受渡し
(木野崎 香取神社)

